

平成28年第1回三笠市議会定例会

平成28年3月15日（第3日目）

○議事次第（第3号）

- 1 開議宣告
- 2 議 事
- 3 散会宣告

○議事日程

- 日程第1 議案第30号から議案第37号までについて（大綱質問）
日程第2 議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号について

○出席議員（8名）

議 長	10番	谷 津 邦 夫 氏	1番	折 笠 弘 忠 氏
	2番	只 野 勝 利 氏	3番	畠 山 幸 氏
	4番	澤 田 益 治 氏	5番	谷 内 純 哉 氏
	6番	武 田 悌 一 氏	7番	齊 藤 且 氏

○欠席議員（1名）

副議長 8番 儀 惣 淳 一 氏

○説明員

市 長	西城賢策氏	副 市 長	北山一幸氏
総務福祉部長兼 総務課長	右田敏氏	財 務 課 長	中原保氏
市民生活課長	金子満氏	保健福祉課長	三百苺宏之氏
企画経済部長兼 建設課長	中沢敏男氏	企画振興課長 兼企画係長	小田弘幸氏
政策推進主幹	三宅博文氏	農 林 課 長	松本裕樹氏
商工観光課長	阿部文靖氏	教 育 長	永田徹氏
学校教育課長	高森裕司氏	社会教育課長	大村康彦氏
病院事務局長	澤上弘一氏	消 防 長	阿部英雄氏
監 査 委 員	森原裕氏	監査委員事務局長	鈴木信之氏

○出席事務局職員

議会議務局長 清水光一氏 議会係長 坂 保徳氏

◎開 議 宣 告

◎議長（谷津邦夫氏） おはようございます。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、議事に入ります。

◎日程第1 議案第30号から議案第37号までについて（大綱質問）

◎議長（谷津邦夫氏） 日程の1 大綱質疑を昨日に引き続き行います。

通告順に従い、6番武田議員、登壇願います。

（6番武田悌一氏 登壇）

◎6番（武田悌一氏） 平成28年第1回定例会に当たり、通告に基づき、質問させていただきますので、御答弁のほどよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

空知総合振興局の発表によりますと、平成27年上期における三笠市の観光入り込み客数は68万人を超え、対前年同期103.5%となっております。

その主な理由として、じゃらんホームページ内における北海道の日帰り温泉アクセスランキング2位に太古の湯がランクインしており、宿泊施設の入り込みが特にふえたこと、また無料のじゃぶじゃぶ池等があることが広く伝わったということから、みかさ遊園の入り込みが増加したことが挙げられております。

少子高齢化が進み人口が減少していく中、依然としてまちの購買力は減少傾向にありますし、まちの活力も低迷しておりますので、今後は今まで以上に観光による交流人口の増加ということについて取り組んでいながら、地域の経済や産業についての活性化を図っていかなくてはならないのではないかと私は思っております。

その中において、国道に面した道の駅三笠については、三笠市の入り口として年間60万人を超える集客力があります。単なる休憩地点としての場所だけではなく、当市においては、その場所からさらに市内の各地域へと導くための重要な情報発信の拠点でもあると私は思っております。

さて、今定例会において先ほど話に出ていた太古の湯については、新たに宿泊施設を建設するとされており、それに隣接するパークゴルフ場についても道路と駐車場の整備計画があるため、今後のさらなる交流人口については大変期待しているところであります。

そこで、市政執行方針において来場者がふえていることから食の蔵の増設を行い、さらなる交流人口の増加を促進し、地域経済の活性化に寄与していくとされており、食の蔵建設実施設計として680万円の事業費が予算計上されておりますので、初めに道の駅につ

いての考えをお聞かせいただきたいと思いますが、道の駅三笠エリアにおける中心的な道の駅施設としてファームセンターがあります。現在はセンター内においてラリー帳の販売を含め、スタンプラリーを行っておりますが、今現在においてもどちらに行けばよいのかという問い合わせが多く、道の駅めぐりをしている方にとっては、わかりづらい状況であります。

また、観光の拠点とされている観光協会もセンター内にあるため、新たに食の蔵が増設された場合やはり人の流れは今まで以上に食の蔵へと向かうと思われまますので、道の駅の中心施設であるファーム施設が今まで以上にわかりづらくなると思われまますので、ファームセンターにどう人を呼び込むのか、また、ファームセンター自体の老朽化も進んできていると思われまますので、将来的にはファームセンターをどのようにしていくのかということについても、あわせて検討していかなくてはならないのではないかと考えております。

そこで質問させていただきますが、食の蔵を増設しても、冬場は営業を行っていない店舗が多い現状の中、果たしてどの程度の交流人口の増加が見込まれるのか、また、目玉となる新たな出店者や年間通じてどのように人を呼び込んでくるのかなど、食の蔵増設による効果とその考え方についてお聞かせいただきたいと思ひます。

また、「道の駅」登録・案内要綱によりますと、道の駅の基本コンセプトとしては、「地域の創意工夫により道路利用者に快適な休息と多様で質の高いサービスを提供する施設」であり、「『道の駅』相互の機能分担の観点から、適切な位置にあること」とされており、その提供サービスについては、駐車台数おおむね20台以上の駐車場や便器数がおおむね10器以上のトイレがあり、24時間利用可能なこととされております。

私も道内各地の道の駅を見て回っておりますが、中には道の駅の標章が示されていなければ、ただ通過してしまうような場所もありますが、道の駅がすぐ近くにあるとわかれば、時間的に余裕さえあれば、そこで一旦休憩してみようかという話にはなるのではないのでしょうか。

そこで、以前からお話していたかとも思ひますが、富良野から三笠に向かって車を走らせた場合、途中トイレ休息をする場所というのはなかなかありません。三笠の東側入り口にも道の駅ができれば、道の駅による集客力を生かして、交流人口をさらに増加させることが期待されます。サービスを提供することによって、地域経済の活性化にもつながると思ひますし、地域コミュニティーの核ともなり得るのではないかと私は思っております。

また、三笠ジオパーク観光モデルコースマップを見ましても、市立博物館が起点となっているコースが多い状況であります。今後さらなるジオパークの推進を図っていく上においても、24時間利用ができる大型トイレの新設など、ある程度の整備は整えていかなければならないと私は思っておりますが、博物館の場所を道の駅として登録することができれば、その効果は大きいものと期待できるのではないのでしょうか。

道の駅の登録については、おおむね10キロから20キロの間隔が理想とされ、1日当

たり5,000台以上の交通量があるなどとされておりますが、あくまでも地域の創意工夫に基づく施設であり、適切な位置にあれば可能とされております。私の知る範囲だけでも士幌町や足寄町、それに鹿追町と斜里町など一自治体で2カ所の道の駅を登録している事例はありますので質問させていただきますが、道の駅による交流人口増加促進についての考え方をお聞かせいただきたいと思っております。

次に、「人が未来に向かって夢を育めるまち三笠」の中から、コミュニティー活動の考え方についてお聞かせいただきたいと思っております。

高齢となり少しづつ外に出る機会がおっくうとなり、だんだんと引きこもりがちになって孤立化していく。また、一人で暮らしている方にとっては、話をする機会がなくなっていく、次第に孤独化に陥ってしまうという問題をよく耳にします。阪神・淡路大震災以降、孤独死という言葉が言われ始めましたが、その原因の一つとして、地域コミュニティーの崩壊が挙げられていたということもありましたので、人とのかかわりが気軽にできる関係づくりを進めていくことが住みなれた土地で安心して生き生きと暮らしていけるまちづくりにつながっていくのではないかと私は思っております。

また、これらの事業を進めていく上においては、個々の生活に犠牲を強いる取り組み、そういうことでは継続できませんし、また、定着もしません。結果があらわれるまで多少時間も必要かとも思いますので、焦らず着実に進めていっていただきたいと思っております。

そこで、市政執行方針において、連合町内会の活動を支援するほか、市役所が市民により近い存在となるよう地区市民センターに出向き、相談活動を行うとともに、集いの場としてのコミュニティー拠点の強化を図るとされておりますので、質問させていただきますが、試験的に行われていた2カ所の市民センターの状況を含め、集いの場としてのコミュニティー拠点強化の考え方についてお聞かせいただきたいと思っております。

最後の質問であります。三笠北海盆おどりについてお聞かせいただきたいと思っております。

市政執行方針の中で、観光については旅行業者等と連携し、三笠ならではの体験型観光の充実を図るとともに、外国人観光客への取り組みも積極的に行い、1年を通して交流人口の増加と経済振興につなげるとされております。

また、北海道経済部観光局の報告によりますと、平成26年度の外国人来道客数は前年度より33.7%増の154万人で、過去最高を更新している状況であります。

三笠北海盆おどりについては、北海盆唄発祥の地である本市にとっては、まさにまちの歴史文化を継承していく上で欠かすことのできない一大イベントであり、昨年には3日間において1万6,900人の入り込み数がありました。

そこで、教育行政執行方針において、市内外へ向けてのPRを強化するとされておりますが、私は市内外へのPRの強化も必要だと思っておりますが、日本人にとってお盆は皆一緒であります。ふるさとに帰り、お墓参りに行かれる方が大勢いるのではないのでしょうか。盆

踊りは日本の代表的な民俗芸能でもありますので、私は三笠北海盆おどりに関しては、外国人観光客を呼び込むという考え方もあってよいのではないかと考えております。外国の方に盆踊りを体験していただき、日本の文化や歴史を知ってもらう、そのような取り組みがあってもよいのではないかと、また、そのようなツアーを企画できないものだろうかとも考えておりますので、三笠北海盆おどりのさらなる魅力づけについての考え方をお聞かせいただくことを最後の質問とさせていただきます、以上、壇上での質問とさせていただきますので、御答弁のほどよろしくお願いいたします。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 私のほうから、食の蔵の増設の効果と考え方ということと、あと道の駅の増設の関係について答弁をさせていただきたいと思っております。

まず、食の蔵の増設につきましては、道の駅の利用者から、雨の日など休憩するスペースがないとか、そのような声が多く届いていること、また、食の蔵に出店している方のほうからも、やはり店舗がふえれば来客数がふえてきて、相乗効果で売り上げのほうも上がるというふうな声も聞いているところでございます。

三笠の道の駅、これは国道に面しております、本当に市内唯一、平成26年度の実績で言いますと、約67万人が利用されているということもありまして、本当に市内でも外貨を稼げる唯一の場所ということで考えております。

また、ある意味、課題といたしましては、この集客した人を市内のほうに引き込んでくることが課題としてはありますけれども、この地域には裏のほうに達布山というのですか、達布地区ということで農村景観ですとか、ワイナリーとかもいろいろありますので、この辺を一体的なことで、今後、市内に人を引き込めるような形で考えていきたいというふうに思っております。

あともう一点、道の駅をふやして交流人口をふやしたらどうかという話でございまして。

道の駅、これを指定する北海道開発局のほうにも、今、三笠市で1カ所ありますので、2カ所目についてどうだろうということを確認をしておりますけれども、1路線に1カ所というのが基本的なものということで聞いておりまして、例えば今、国道12号に道の駅がありますが、それ以外の路線であれば可能ということは聞いております。

道の駅につきましては、認知度も高く交流人口の増加によります地域活性化の推進、これが期待できるということもありますので、今後2カ所目の設置については必要だろうというふうには考えておりますが、場所等につきましては、例えば桂沢湖畔ですとか、先ほど議員が言いました例えば博物館中心、博物館付近ですとか、例えば中心市街地ですとか、複数の候補地があるということでございますので、今後、効果等含めて研究していきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（谷津邦夫氏） 総務福祉部長。

◎総務福祉部長（右田 敏氏） それでは、私のほうからコミュニティー事業の関係で答

弁させていただきます。

この事業につきましては、試験的にことしの1月から岡山市民センター、それと幾春別市民センターのほうで2カ所、週1回開放ということで行っているものでございます。

その状況でございますが、冬期間ということで、天候により訪れた方の数は多少変動はございますが、これまで3月11日までの実績としましては、岡山市民センターに9回開放いたしまして、参加者につきましては、延べ45名、最大で10名、最少で1名という形になってございまして、1回平均大体5人ぐらいの参加者ということでございます。

また、幾春別市民センターのほうでございますが、8回の開放を行いまして、延べ90人、こちらのほうは最大で18名、最少で2人というような参加となってございまして、1回平均11.3の方が訪れているというような状況となっております。

訪れた方の内容につきまして、まずDVDで健康体操などを行って、その後、話をしたり、趣味をして楽しんでいただくとというようなことをやってございまして、その流れが回数を重ねることによってできつつあるのかなというふうに思っております。この事業の周知度も少しずつ上がってきていますので、最近では少しずつ参加者もふえつつあるのかなというふうには思っております。この事業につきましては、4月からは全ての市民センターにおいて実施していきたいというふうに考えてございます。

強化の考え方ということでございますが、いろんな健康相談、月1回やなんかやってございますが、そのほかに各所管の部署でこちらのほう活用してできる事業、例えば納税相談ですとか、そういうもの、また、そのほかにもいろんな各所管が、市民と直接窓口を設けてやれるような所管がこの月1回の中にどしどし参加して行って、地域の皆さんとのコミュニティーも図りながら進めていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 社会教育課長。

◎社会教育課長（大村康彦氏） 私のほうから、三笠盆おどりのPRの充実内容ということで答弁させていただきたいと思えます。

ことしの三笠北海盆おどりににつきましては、三笠市の一大イベントとして市内外に向けてのPRを強化するとともに、和を意識した伝統行事となるよう、さらに魅力づけした事業として計画しております。

PRの強化策としましては、市内企業などにポロシャツをあっせんしたり盆踊り教室を開催するなど、市全体が盆踊りである雰囲気づくりを演出するとともに、当日の内容としましては、子供みこしやちょうちん行列など、昔行っていた行事を復活したいと考えております。

また、昨年からジオパークと連携したジオパークの謎解きイベントにより市外からの参加者増を図っております。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） ただいま答弁をいただきましたが、再度もう少し質問させていただきたいと思います。

それで初めに、食の蔵のほうから聞かせていただきたいと思いますけれども、私も店舗数がふえたほうが相乗効果で交流人口がふえるというのは大変同じ考えであります。当然そうなのだろうなということがあります。

それで、また、以前からトイレと食の蔵の間、あそこは非常に接触事故等が多くて、警察のほうでもという話も聞いておりました。そういう意味においては、あそこを一体化した食の蔵が建設されるということは、当然通行どめになりますので、そういう事故等の減少にもつながると思いますので、大変いいことだと思います。

そこで、予定では一体化するような形として図面が出ていたと思うのですがけれども、現在、今ある食の蔵で出店されている方については、ある程度これからこういう建物をつくれますよということが理解されていなければいけないと思うのですがけれども、その辺、今現在そこで商売されている方、歩行者天国にしたいというときも、実は車が目の前にあったほうがお客様にとっては都合がいいので、そこはぜひともという話も以前ありましたので、その辺の今現在、出店されている方の理解というのはできているのか、また、どの程度中身について話をしているのか、状況だけお聞かせください。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 食の蔵の増設の件ということで、既存の入店者の方には、計画を所管としてしているときに一度話をさせていただいているということでございます。出店者のほうからは、先ほどちょっと一部重複しますけれども、やはり店舗がふえることによって集客力がふえるということで、非常に事業を進めてほしいというふうな回答をいただいていると。ただ、まだ予算の審議前ということもございますので、今後、議決になった段階で、また改めて詳細な協議をさせていただくということで現在考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 当然、詳細については今後この定例会で議決されてからということになるのだと思うのですがけれども、そこで若干僕が気になっている点として、今現在あそこで商売されている方、具体的に言いますと、八列トウキビを販売されている方、実はあそこは結構人の流れが来るのですけれども、今現在はたしか外で炭で焼いているかと思われま。これ建物が一体化すると、今度その屋内で炭をおこさなければいけないのかなと考えれば、ちょっと煙の問題とか、いろいろあるかと思えます。そういうことを踏まえて、当然そうなれば煙対策等、今現在、出店している方の負担増になることも考えられるのか、この辺の考え方を聞かせていただけますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 基本的には、既存の店舗側の改修は発生しないように進めていきたいと思っております。

ただ、既存の食の蔵の向かい合わせに建物を建てまして、そこを屋根でつなぐと。中に休憩できるスペースということで考えておりますので、今後、設計等が進んでいく段階で出店者のほうとは詳細な打ち合わせをしていくということで考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 私たち行政の考えで新たに建物をつくる中で、今いる人にまた出資してくれというのは少々大変かなと思いますので、今、新たな出費が発生しないように考えているということ聞いて少々安心しました。

それで、また今、先ほどの八列トウキビのお店の話もしました。また、農家の作物を販売されている店舗というのがあるかと思えます。当然、冬場売る商品がなくて店舗を閉めているという形の店もあるかと思うのですが、今度、形どうなるのかわかりませんが、大きな建物になって、やはり冬場お店があいてないという、シャッターが閉まっているという状況が多過ぎると、また余り見た目もよくないのかなと。逆に冬場でも出店してもらえるような、出店しない理由としてはやっぱり売る商品がないというのと、観光協会の資料で申しわけないのですけれども、実は極端に11月から3月までは人の入り、流れが減っております。平成26年でいきますと、これ、たまたま観光協会の資料ですけれども、1カ月の平均は4,266名ほど来ているのですが、11月から3月にかけては1,410名、過去4年間見ましても、大体このような数字になっておりまして、平均をとりましても、全体では4,676名に対して、11月から3月に限れば1,300名ほどまで人の流れというのが減少します。本当にそういう意味では、冬場にどうやって人を呼び込むということが重要なのかなと思いますので、その辺の考え方あれば、ちょっとお聞かせください。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） ちょっと先ほどの答弁で、ちょっと一つ漏れた部分がございます、トウキビの焼く話がございまして、実は私どもも、現在、外で焼かれているということで、もし食の蔵が建って一体的になると中のほうに入ってやっていただかなければならないと。そのために一応換気扇等も必要になりますという話はちょっとさせていただいている部分はございます。

あと、今の11月からやはり売り上げが落ちているということは、私どもも認識しております、一つの要因としては、本当に例えば表というのですか、休む場所もない、雪が積もったりですとか、やはり販売するものがなくなってくると。それに伴って人も減ってくるのだろうというふうに思っています。

今回、計画しております建物につきましては、全体的に屋根をかけるということで、冬もこれまで以上に利用しやすくなるということもございまして、そのときにあと中でのようなものが販売できるのか、そこにつきましては、今後、観光協会とも協議して、できるだけ皆様方に寄っていただけるような商品を置いていきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） これ冬場に道の駅の入り込みが減るとするのは、決してうちだけの話ではないのですよ。どこも一緒なのですけれども、ただ、黙っていてもしょうがないので、やっぱり知恵だけは絞っていきたい、そういう意味では僕も一緒に、同じ、例えば以前、担当の所管の課長にも普通に話した中で、例えば冬あそこ雪たくさんあるのだから、雪の巨大迷路をつくって遊べるような施設をつくったら大したお金もかからなくてできるのではないとか、雪合戦できるようなスペースをつくっておいてもいいだろうし、逆に宿泊施設もあるし、かまくらをつくって置いておいてあげるのも方法だよねとかというような話はしたことはあるのですけれども、お金をかけるだけが全てではないと思いますので、やっぱりちょっとでも興味を示していただけるような形になれるよう、ちょっと知恵だけは私たちも考えたいと思いますけれども、一緒に考えていければなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それで、今、今回の中に民間企業による宿泊施設という話が出たと思うのですけれども、それで今ファームセンターのほうに行くと、2階が実は会議室とされていますよね。ただ、年間の利用率でいったら余り活用はされていないのかなと。そんなにそんなにあそこで会議をしているというのは僕自身も余り見ていない、年間何回あるのかなというような感じなのです。

それで、今回、裏に民間企業により宿泊施設ができる。当然資料の中には会議室という言葉が出てきているのですよ。僕は正直言って、民間さんがこうやって考えていただけるのなら、ファームセンターの2階の会議室をそのままにしておく必要はないかなと。逆にファームセンターを利用して会議を行っていた方がいけば、後ろの民間施設の会議室を利用して下さいという考え方があってもいいのではないのかなと。そういう意味でいけば、2階をどうやって利用することが、2階を活用することによって新たな方法で人を呼び込めないかなと思っているのです。

それで、前段登壇でも話ししましたように、みかさ遊園、じゃぶじゃぶ池、小さい子供に人気でたくさん来ている。お金もかからないからたくさん来るのだということで、三笠市内に小さい子供さんを連れた家族連れの方はたくさん流れ込んでいるのだと思います。今現在、三笠の道の駅というのは、ほとんどの方が30歳以上の方で、滞在時間は1時間以内という状況になっているのですけれども、それで、これ単なる私の思いかもしれないのですけれども、今現在、道内に6カ所ほどなのですが、小動物に触れ合いができる施設というのはあるのです。円山動物園とかノースサファリサッポロとかいろいろあるのですけれども、道内に6カ所ほどウサギとかそういう鶏とかいろいろ、ハイジ牧場も近くにありますが、そういうような施設があります。ただ、道内6カ所ありましても、全て屋外です。ということは、当然、冬期はやっていない。そういうことを考えれば、じゃぶじゃぶ池まで小さい子供が来ているのなら、そこでただお金を使わないで帰ってもらうよりは、帰りちょっと三笠の道の駅行ったら、小さい小動物、ウサギとかカメとか、その

辺歩いている、手に触れることができる、直接。あと、鳥とかハムスターでも何でも小さい子供さんが興味を示すようなものを設置しておくだけで、ちょっと足を延ばしてみようかなど。道の駅というのは基本的に休憩ですよ。道路を通過していった中が中で休憩したいという場所だったのですけれども、最近、おんねゆ温泉の道の駅とか、北の大地の水族館があると思うのですけれども、だんだん道の駅自体が目的地と変わってきているということもあります。そういう意味で、何か知恵を絞って、三笠の道の駅でも寄ってってもらえるような方法というのでも検討していかなければいけないのかなと思うのですけれども、今現在ファームセンターの2階の活用の考え方というのは、どうなっているのですか。教えてください。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） まず、サンファームセンターでございますけれども、昭和63年に建設をいたしまして、昨年、屋上防水の工事の一部を終えたということで、耐用年数、例えば50年ということになりますと、まだ20年以上も利用できるということで、今後もしっかり活用していこうというふうに考えております。

サンファームの2階の利用状況ということでございますけれども、これは会議室ということで利用されておまして、平成26年度の実績で言いますと約20件ほど、利用者は二百数十名でございますけれども、利用があるということでございます。

ただ、今後になると思っておりますけれども、宿泊施設が建設されたときには、宿泊施設の中にも、今、会議室ができるというふうに聞いておまして、会議の規模によってはやはり宿泊施設の会議場とこのサンファームの会議場、まず両方使うことも想定としては今出てくるということで、考えているところでございます。

あと、あわせて、この2階の部分になりますけれども、昨年の7月に実は北海道開発局と道の駅三笠の防災の避難場所ということで、実は協定を結んでおまして、この2階の部分の避難場所ということの設定をされてございます。

今後につきましては、このところの機能をまずは確保しながら、今後どのような活用ができるのか研究していきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 避難場所になっているというのは、ちょっと私も知らなくて、勉強不足で申しわけないなど。そのような形で利用の仕方があるということであれば、それはそれで構わないのです。ただ、私も、今、部長の答弁にあったように、あと20年ぐらい使えるのですよね。やっぱり有効的に使えるというような方法というのは検討していただきたいなと思っております。

それで、とりあえずこの部分についてはいいかと思っておりますけれども、2番目に交流人口の増加ということで、2カ所目の道の駅の登録という話に移らせていただきたいと思っております。

先ほどの答弁では、今後必要だろうと考えているけれども、場所については検討中だと

というような話がありましたので、この辺については今後検討していただけるということを知ったので私としてはよかったかなとは思っているのですが、それで今、湖畔なのか、まちなかなのかということも含めてという話があったと思います。

それで、僕の感覚なのですが、きのう市長も答弁の中で、高速道路で下ってきて富良野に抜ける場合、3割ぐらいの方が富良野に向かっているというような話だったと思うのですが、高速道路に乗ってきて富良野に向かう途中、割と道の駅というか、トイレ休憩する場所と考えた場合、割とあるのかなと。逆に、まちなかでなくても、まちなかとしての交流する施設は僕も必要だと思いますが、道の駅のような指定をするのはどうなのかなと。逆にそう考えた場合、まちなかより僕は奥地のほうがいいのではないかと考えております。また、今、桂沢ダムをかさ上げしていますけれども、以前に聞いたときには国有林とか国有地が多くて、なかなか設置する大きなスペースは確保できないのではないかなという話も以前あったかと思っておりますので、そういう意味では、博物館あたりが一番いいのかなと僕の中では考えております。逆に下り線で富良野に向かう場合は、結構先ほど言いましたように、いろいろと、トイレする、休憩する場所というのはあるのですが、逆に上り線を考えた場合にはないのですよね、なかなか。富良野から出てきて、しばらく山の中を通ってくるので、なかなか途中でそのような場所というのはない。

今、美唄富良野線をつくるという話がありますよね。計画的にいつ完成するのかわからないのですが、それが開通すると三笠のインターでおおりより5分10分早くなるのではないかとされていますけれども、逆にそこ、下り線でそちらを利用されたとしても、先ほど言ったように、多分岩見沢のパーキングエリアあたりで休憩をしないと、その先は多分富良野までトイレ休憩するような場所が、多分三段の滝に小さなトイレが2カ所、2基ぐらいあるかな、それぐらいしかないのかなと。逆に上り線を考えた場合、その美唄富良野線に乗ってしまったら、やはりパーキングに着くまでないのですよ、トイレの場所というのは。若干、1時間20分ぐらいはバスだったらかかってしまうのかなと。そういうことを考えれば、博物館のあたりに設置、登録ができて、トイレができれば、割と利用してくれる方は多いのではないかなと思います。

また、今ジオの関係でいろいろやっていると思います。きのうも学習のツアーとか五百何十人とかという話もありましたし、多くの方がジオを利用させていただきたいと思うのですが、やはりジオサイトを回っていく中でも、トイレというのが問題の一つであると思うのです。これから学校に声をかけてたくさん児童生徒が集まってきた中で、逆に博物館の中にしか多分ジオサイト、野外博物館とかへ行くとすれば、博物館の中に行かないとトイレがないのかな。逆に今現在、博物館の中に入るには入館料がかかってしまうので、個人的に来た人はなかなか利用できない、しづらいのかなと思うのですが、そう考えた場合に24時間トイレを利用できるような形ができないかなと。

例えば施設、博物館の中を少し、今回も改修の予算ありますけれども、例えばトイレだ

けはちょっと整備をさせていただいて開放すると。入っていった中で、トイレに行く途中、左手をのぞいたらアンモナイトがたくさん並んでいると。興味ある人はそこから先は入場を払って見て下さいという見せ方もあるのかと思うのです。逆に本当にプライベートでジオの施設をめぐってくれる方にとっては、なかなかトイレが使えないということも考えられる。また、先ほど言ったように、道の駅がだんだん目的地としての道の駅になっていっているという現状を踏まえた場合、あそこが道の駅に登録されたら、ジオの拠点になると思うのです。あそこから単なるトイレ休憩の場所ではなくて、博物館の道の駅を目標にお客さんが集まるのだと思うのです。それによってさらにジオサイトに流れていくという方法も考えられると思いますし、何よりあそこで人がにぎやかになると、幾春別地域、多分少しにぎやかになるかなと。食事をする場所も含めて、まちにちょっと活気が出てくるのかなということもありますので、ぜひ私は個人的にはあの辺の場所がベストのかなというふうに考えておりますので、今後どのような形で検討されるのかわかりませんが、いろいろな側面から考えていっていただきたいなと思います。

何か答弁があればいただきますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 今、道の駅の関係で、武田議員のほうからも博物館が好ましいのではないかというふうなお話です。確かに私どもといたしましても、ジオパークの中心的な場所ということでございますので、それに対応できる必要なトイレというのは必要だろうというふうに思っております。

先ほどちょっとありました建物の中のトイレは、私ども聞いている範囲の中では、トイレだけでも使っていただいているというふうには聞いているところでございます。

あと、先ほど美唄富良野線の話もございましたけれども、5年後ぐらいに美唄富良野を完成するというふうな話も今聞いておりますので、私どもといたしましても、しっかり三笠のまちの中に来ていただけるような魅力づくりということを踏まえまして、本当にどこの場所が三笠市にとって市益になるのか、そののところもしっかりと踏まえた中で検討していきたいというふうに思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 今の答弁の中で、美唄富良野線が5年あたりでという話でありますから、できればその前に、登録場所は別として、道の駅が近くにあるよということがわかれば、その道路が開通した後もやっぱりリスクは少なくて済むのかな、ある程度周知が広まってきたら、やはりそこを経由していこうかという考えも生まれてくると思いますので、できれば早目に市民周知ができるような形をとっていただければ、今後必要だと考えているのであれば、そういうのも頭の隅に入れておいて研究していただければと思っております。

それで、次、コミュニティー拠点のほうにちょっと考え方を移らせていただきたいと思っておりますけれども、先ほど総務部長の報告で合計岡山45名、幾春別90名あったというこ

とで、これ時間かかると思います。でも、僕の思いとしましても、やっぱりこういう取り組みは絶対必要だと思います。当然時間がかかると思いますので、じっくり確実に進めていっていただきたいなという思いであります。

それで、今現在、毎週開放はしているけれども、月1回の相談だということだったのですけれども、これ健康体操等いろいろやっている中で、市民からの相談というのはなかったのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 総務福祉部長。

◎総務福祉部長（右田 敏氏） 今現在、相談をやっているのは保健師がいて、健康に関する相談関係が受けております。それが2カ所で約40名ほどから相談といいますか、健康に関する御相談を受けながら、保健師が適正な指導といいますか、そういうのをさせていただいているということでございます。

あと、今後、今月は納税のほうもこの相談の日に合わせて徴収関係の納税の相談もあわせて行うような形で、今、スケジュールは組んでございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 最初のうちは相談は少ないのだと思いますけれども、やっぱりだんだんそういうのが理解、周知されてくると、今後、相談がふえてくると思われます。また、今、部長の答弁あったように、今後違う分野での相談も出てくるということを僕も思いますので、その辺はやっぱり地域の方々の相談にいろいろすぐ対応できるように、税含め、その他いろんな各所管と連携しながら、その辺はうまくやっていただきたいなというお願いであります。

それで、今回こういうコミュニティー拠点強化という考えがありましたので、一言だけ僕がすごく日ごろから気になっているのですけれども、現在うちのおふくろもおやじが亡くなって一人で生活をしております。日中、私、顔を出しますから、日中はいいのですけれども、多くのお年寄りの方がそうだと思うのですけれども、今、どんどん子供さんは自立してって配偶者の方が亡くなって、結果的に一人で住んでいるという方がふえてきているのかなと。やっぱり一番寂しいときというのは、食事をするときらしいのです。うちのおふくろも一人になってしまったから、今日はこの程度の料理で食事を済ませてしまったというような話も聞くのです。また、おじいちゃんとか、よくこれ聞く話なのですけれども、いや、もう酒飲んでつまみ食ってればいいんだというような声も聞こえるのですよ。そういうことを考えたら当然僕は、有償でなのですけれども、こういう場で皆さん、仲間同士でも集まったら、食事提供できるという機会をつくれないうのかな。例えば10時から3時まで開放しますよね。逆に来てくれた人、10時半なり11時ぐらいまでに申し込みさえしてくれば、昼にそこに弁当を届けてもらえる。届け先が民間のそういう商売をやっている方をお願いするのか、また、ちゃんとした管理栄養士さんに任せて病院のほうから逆に届けてもらうのか、給食センターなのか、いろんな考え方あると思うのですけ

れども、やっぱり皆さんで輪になって仲間同士で食事を提供できる場所という考え方もありなのかなと思っているのですよ。やっぱりそういうコミュニケーションのとり方も大事だなと思っているのですけれども、この有償による食事の提供ができないかという考え方は何か答えいただけますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 総務福祉部長。

◎総務福祉部長（右田 敏氏） 実は今も弁当を持って参加している方もいられます。ですから、自由に場所を開放して、その施設を自由に使っていただいて、その中には自分でお弁当を持ってきて、その地域の方とお話しして過ごしているという方が現実的にいますし、今後、多分こういうのもふえてくるのではないだろうかというふうには考えております。

これはまだ、今、試験的にやっている最中でごさいます、参加者につきましては弁当で参加しているという方もいられるという中で、その地域の中で皆さんがそういう希望があれば、その地域の皆さんとどういうふうにしていったらいいのかと、そういうのは幾らでも相談しながら進めていくことは可能だというふうには考えてございますので、行政側からまずこういう形でこうするのですよという押しつけでなく、やはり地域の皆さんが参加していただいて、皆さんで自由にそこを利用して活動していただくというのが根底にございますので、それは地域の皆さんで話しした中で、最良の方法を検討していきたいなというふうには考えてございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 今、部長のほうから説明いただきましたので、すごく理解できました。やっぱりいろんな話あると思って、今後そういうニーズがあれば、対応できるようにしてあげられればいいと思いますし、当然自分一人で食べるのよりはみんなで食べたいからと持ってくる方がいるというのは想定できると思いますので、その辺は臨機応変、うまくやっていただければなと思っております。

それで、やっぱり中にはそういうセンターに出たくない人というのはやっぱりいるのだと思うのです。面倒くさいとかなんとかという、理由はいろいろあると思うのですけれども、やっぱり出たくない方もいるのですけれども、これ強制的に来いというにもいかないのですけれども、やっぱり町内会を通してとか、ある程度のおせっかいをやくというのではないのですけれども、行きましようよという声をかける人の役割というのが、実はそれが地域の孤独死を防いだりする見守り役にもなると思いますので、その点も踏まえて町内会の中で誰かリーダーになってくれるような方がいれば、そういう声かけ運動もしていただけるような方法を考えていただければありがたいかなと思いますけれども、今現在そういうのは何もないですよね。

◎議長（谷津邦夫氏） 総務福祉部長。

◎総務福祉部長（右田 敏氏） 取り組む最初に連町の会長さんにもお願いしまして、そ

して各役員の方にも、町内会にもこの事業の内容を説明いたしまして、周知して始めているということでございます。やはり地域の方にはリーダー的な存在の方がどうしてもおられますので、そういう人方が声かけをしながら、この場を楽しみにできるような形を工夫しながら、そして、そういう方々に参加するふうに声をかけていただきながら取り組んでいきたいというふうには考えてございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） その辺のことについては、やっぱり地域をみんなで見守っていくという考えの中からも必要かと思っておりますので、その辺もよろしく願っていたと思います。

それで最後、三笠北海道盆おどりの魅力づけということでもあります。今回、和を中心としてという話もありましたよね。それは大変いいことかなと。私も言ったように、日本の民族である、そういうこともあれば、やっぱりそういう日本らしさを出していくというのは全然ありなのかなと思っております。

それで、事業の盆踊りの中で、今年度、高校生の出店という話があったかと思っております。以前もそのような話があって、改選期前でしたけれども、そういう盆踊りの会場、アルコールを出すような場所に高校生出店してもらってどうなのかなという話が一部の議員から出ていたという記憶があるのですが、今回、高校生にも出店してもらおうという事業計画の中で、やはりこれ盆踊り自体、イベント自体、夜9時ぐらいまでかかってしまうということもありますので、ちょっとその辺の高校生の出店の部分の中身を教えてくださいませんか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育長。

◎教育長（永田 徹氏） 高校生につきましては、なるべく地域の行事に協力したいという気持ちを持っておりまして、まだどういふものを出店するかというのは今後のことなのですけれども、高校生ですので夜遅くまでというふうにはならないと思っておりますけれども、その辺の時間帯につきましては、今後、顧問の先生とも相談しながら進めていきたいと思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） 私も夜遅くまでというのはどうかなと思っておりますので、その辺はないようにしっかりと決めてやっていただきたいと思っております。

それで、壇上でも話ししましたように、やっぱりPRはどんどんしたいのですけれども、日本全国お盆期間中はみんなお盆一緒でありますので、ぜひともここはジオを絡めた意味でも、外国人というところも一つのターゲットにして僕はできないかなというような思いだったので、それで、これから検討されていくのだと思っておりますけれども、どんどんやっぱり日本の文化に触れてもらって、着物を着て踊っていただければすごくいいのかなと。逆にそういうことを考えれば、着物のレンタル料とかも発生するかと思いま

すし、当然踊る会の方々に協力してもらわなければいけないので、例えば盆踊りの踊り方の指導料みたいな形でもお金は発生することも考えられるかということもありますので、ぜひそのようなツアーを検討していただければと思いますけれども、たしか去年何名かが、余り大きくなかったかと思えますけれども、外国の方見えていたのかな。何かその辺の関係ありますよね。ことしどうなっているのか、ちょっとその辺の中身でわかるところあれば教えてください。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 外国人関係の関係者ということで、実はことし、イオンの旅行者でありますイオンコンパスというのがございまして、ここでタイ人向け観光ツアー、この試行的実施が、今、検討されていると。

（発言する声あり）

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 実はこれはまだ、例えばお盆に来るかどうかというのは別の話でございますけれども、ことし、今そういうふうなことで検討がされているということでございます。内容につきましては、三笠ジオパーク、これをメインにいたしまして、イオン農場によります収穫体験、これを交えた中で企画検討しているということでございます。

今後の取り組みといたしましては、具体的にはイオンと連携を密にして、また、一昨年に本格的な外国人向けジオツアー、これを実施したということもありますので、日本の文化等を取り入れた中で成功させていきたいというふうに思っております。

また、今後の外国人観光客ということでございますけれども、その国ならではの気候ですとか習慣などがあり、ニーズも多種多様ということがあります。市としても、どのような素材を求めているのか、課題は何なのか等を洗い出しまして、魅力ある外国人向け観光を構築していきたいなというふうに現在考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育長。

◎教育長（永田 徹氏） 済みません。昨年、外国人の方、今、参加されているということでした。実は恐らく、うちのALTが2名ほどいるのですけれども、そのALTの管内のALTの方、友だちづき合っているものですから、その方が数名来たかと思えます。五、六人来たかと。その方でないかなというふうに感じますけれども。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎6番（武田悌一氏） いろいろな方法あると思います。先ほど教育長のほうからALTではないかという話もありましたけれども、最初は小さいところからでも全然構わないのだと思います。いろんな方面にPRしていきながら、三笠市の一大イベントでありますから、大きくなっていただければいいなと思っております。

それで、そろそろ時間になってきたのであれなのですけれども、最後にちょっと市内全体として盆踊りウィークではないのですけれども、というような話があったかと思えますけれども、それで、今現在、夏、お盆、盆踊りの期間の前段に商工会のほうの主催で夏祭り

をやっていますよね。逆にあれが多分7月の末、最終あたりか8月の上旬だと思うのですけれども、そこからお盆、盆踊りまでにつながるような何か企画ができないかな。例えば行政のほうで可能かどうかは別として、あそこの中央公園、料金は発生しますけれども、使ってくださいと。そのかわりテントなりプレハブなり場所だけはとりあえず確保しておきますという中で、例えば先ほどありました、僕は、お盆の前段にでも、高校生、以前もあったと思うのです。管内食物調理科に近い食品を扱う高校が、岩農とか何カ所か、数カ所ありますよね。そういう人方でイベントを1日やってもらう。また、逆に私どものような商店をやっている人方に声をかけて1日やってもらう。逆にうちの町内会でやってもおもしろそうだなというところに声をかけてやってもらうといういろいろなところに皆さんに協力していただければ、市全体で盆踊りウイークというのをつくることも可能ではないかなと思うのですけれども、そのためにはやっぱり最低限の箱、場所なりを用意していただけるとありがたいと思うのですけれども、現在そのようなことが検討されているかされていないのか、可能なかどうか、ちょっと考え方だけ聞かせてください。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育長。

◎教育長（永田 徹氏） 今、盆踊りウイークというお話ございましたが、今回の盆踊りにつきましては内容を少し拡充させていただいておりますが、実はこれ私どもも、今回、期間については延長していませんけれども、やはり期間についても延長して、本当に三笠の一大イベント、文化歴史の継承という意味では、もう少し拡充したいなという考えを持っております。

ただ、今なかなか例えば岐阜県の郡上おどりやなんかでしたら、7月の中から9月の初めまで、本当に長期間にわたってやっております、しかも盆踊りの13日から16日までには本当に夜中じゅう踊っているというような実例もあります。江戸時代からやっているので歴史が全然違うのですけれども、そこはちょっと極端過ぎますけれども、少しでもやっぱり市民の踊りだということ意識づけさせるためには、そういうことも必要かなと思っております。

ただ、一番大事なことは、やっぱり今私思っていますのは、まだまだ市民の踊りになっていないのかなと。やっぱり自主的に踊りに参加していただけるような、そういう雰囲気づくりをしっかりとやって土台を固めた中でそういう拡充を図っていく必要があるのかなと思っておりますので、その辺はしっかりこれから取り組んでいきたいと思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 武田議員。

◎9番（武田悌一氏） 今、教育長のほうからも答弁いただきました。若干きのうも一部の議員から言われていましたように、市立病院等をはじめ何カ所かの問題はあるかと思っておりますけれども、私は基本的にすごく期待の持てるまちの要素というのはたくさんあると思います。ぜひこれから先、本当に盆踊りについては全国から、極端な話、全世界から呼び込めるぐらい大きなイベントになっていただきたいと思っておりますし、本当にいろいろな可能性を踏まえてこれからも頑張ってくださいなど。大変その辺を御期待申し上げます。

ら、時間でありますので私の質問を終了したいと思います。ありがとうございました。

◎議長（谷津邦夫氏） 以上で、武田議員の質問を終わります。

最後に、1番折笠議員、登壇願います。

（1番折笠弘忠氏 登壇）

◎1番（折笠弘忠氏） 平成28年第1回定例会におきまして、通告に従いまして御質問させていただきますので、御答弁のほどよろしくお願いいたします。

冒頭、まずは27年度の行政運営に対し、西城市長はじめ行政職員の皆様の御尽力に心から感謝を申し上げます。西城市長体制2年目となる28年度においては、さらに市民の期待に応えるべく、当市の経営に対し全力投球をしていただけるようお願い申し上げます。

それでは、質問に移らせていただきます。

まずは、市政執行方針の「人が元気で働けるまち三笠」について、企業誘致あわせて既存企業、市内企業へのサポート支援体制についてお伺いいたします。

日本では今日、人口減少という非常に大きな問題を抱えております。2010年に1億2,805万人だった日本の人口は、2055年に8,673万人、2105年には4,459万人まで減少すると予想され、社人研による推計を見ると、本市の人口は平成72年、2060年には1,963人にまで減少するとしており、平成22年から人口減少率は80.8%となっております。空知管内が63.5%であることから、本市の減少率は非常に高いことがうかがえます。

昨年10月に策定した三笠市まち・ひと・しごと創生総合戦略には、経済・産業活性による雇用の創出、移住・定住、子育て支援や地域課題の克服に向けた安心な住環境整備による人口対策がうたわれております。今後、それらを本市の政策遂行上での最上位の計画である第8次三笠市総合計画に基づき、さまざまな施策が実施されていくこととなります。

平成2年の三笠第2工業団地の造成以来、三笠市工業団地においては53区画の立地と、近年、非常に伸び悩み、中小企業がほとんどの市内における企業においても、社会情勢の動向により厳しい経営を強いられ、商業においても人口減少や経営者不足により商業機能が低下してきており、市内企業全般において今後ますます厳しい状況が続くと思われまます。このことは、さきの総合戦略においてもうたわれておりますが、雇用の創出なくして持続可能な地域の創出はとても難しいというものになります。さまざまな環境整備による交流人口増加の効果や利便性や住みやすさを強みに、まちを構築することも可能であるとは考えますが、移住・定住や税収面、安定した市政を行う上で雇用の確保と労働環境の充実を避けて通れない最大の課題であると認識しております。

2014年にイオンアグリを誘致できたことで、地域農業の活性化と雇用の充実の面に大きな恩恵があることについては大変明るい展望であり、期待をするところでございます。今後、誘致については、民間の企業誘致に関する調査機関や各団体、企業とさらに連

携を密にし行っていく必要があります、また既存企業に対しても10年、20年と三笠で操業していくメリットを感じていただけるような企業支援の体制が必要であると考えます。

また、地元出身の高校生や大学生の新卒者を率先して雇用している企業もあると聞き及んでおりますが、新卒者を雇用、育成していくには、企業もそれなりの努力と費用が必要であろうと考えます。

そこで、まずは今後の企業誘致に関する戦略、もしくは行政の考え方についてお聞かせください。

また、既存企業への現行の支援体制や新たに検討しているもの、支援体制について既に企業からの要望等がありましたら、あわせてお聞かせください。

次に、市政執行方針の「人が未来に向かって夢を育めるまち三笠」について、次代を担う若者世代に対する環境づくりという点と三笠特命大使についてお伺いをいたします。

自分が生まれ育った土地というものは、その土地を離れ暮らすことになっても、いつまでも変わらない大切な場所であります。進学や進路に伴って故郷を離れるという者は決して少なくありません。それでも故郷を大切に思わない者は、ほとんどいないでしょう。

しかし、現実には、そのような心のよりどころとなる地域が立ち行かなくなっている現実があります。地域経済の地盤沈下や少子化、過疎化など、地方が抱える問題は数多く存在し、地方の衰退を食いとめるには、やはりこれらとしっかりと向き合っていかなければならず、さもないと地域社会そのものが消えてなくなるのは時間の問題であります。

現在、地域に活気を取り戻そうと日本全国の多くの地域が町おこし、地域振興に取り組んでおります。その手法はさまざまですが、それらを実施、活性化につなげるためには、幅広い世代の市民参加が必要であろうと考えています。

そこで私が注目すべきところは、昨今、若者の地元志向、地元への愛着が増してきている、そういうアンケート結果、データが示されているところです。しかし、働く場や通勤に関する問題が弊害となり、この結果がイコール現状事実とは言い切れず、あくまでも気持ちではそう思っているというわけですが、いずれにしても、今後、全国の地域で若者の地域参加をふやす取り組みが推進されると予想されます。当市も次代を担う若者世代への環境づくりの一環として、27年度の補正予算において、江別市との広域連携事業の中で、大学生の地域参加を計画されているわけですが、そこで2点目の質問でございます。

地元出身の特に高校を卒業し、地元もしくは近隣市町村に勤めている若者や大学生をターゲットとした地域社会参加への機会や活躍の場が、さまざまな施策を行う上で大変貴重なものになると考えますが、行政としての御見解をお聞かせください。

最後に、三笠市特命大使についてお伺いをいたします。

昨年、元市長の小林氏が三笠市の特命大使として香港に行かれました。現地においても大変好評であったと聞いておりますし、今後もこの制度を利用しながら三笠のPRを行っていただきたいというふうに思いますが、トップセールスでもある市長みずから、もっと

前面に出てPRをしていただきたいという思いもございます。また、あの特命大使というものだけではなく、観光大使または札幌三笠会、東京三笠会の方々が三笠市のPRをもっと拡充し担っていただけるような考え方がないのか、検討されていることがあれば、あわせてお聞かせください。

以上、壇上での質問を終了させていただきます。御答弁のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） まず最初に、企業誘致の活動の関係にということでございます。

企業誘致につきましては、民間の信用調査会社、ここを活用して企業側へのアンケート調査によりまして、進出する意思があるか否か、ここをしっかりと調査いたしまして、可能性のあるところにアプローチをしていっているということでございます。

これまでは雇用の創出という面で影響の大きい製造業を中心に誘致活動をしてきていたというところでございますけれども、今年度につきましては、まちづくりの一環としても進めております食に関する取り組みということで連動するように、食品関連の企業、ここを重点的に調査活動を今実施しているというところでございます。

企業誘致の実現ということでは、非常に厳しい状況がございますけれども、今後も継続した誘致活動を実施していきたいというふうに考えているところでございます。

あと、次に既存企業からの要望と対応ということでございましたけれども、既存企業のまず要望、このまず把握ということでは、三笠の工業団地企業会というのがございまして、この懇談会の中に参加をさせていただきまして、要望等について話し合いを行っているというところでございます。

実施につきましては、年2回ほど定期的な懇談会ということのほかにも、必要に応じて、企業会の役員の方とも話し合いを行っているということでございます。また、年に1回、市が実施しております従業員調査等のアンケートというのがございますけれども、この中でも要望があれば出していただいているということでございます。

具体的な要望といたしましては、例えば道路ですとか、排水などの日常に関する改善要望ですとか、電気、水道料金など、ランニングコストに関する支援要望ですとか、人材の育成、人づくりに関する支援の要望ですとか、あと機械の設備更新費用、これに関する支援要望などがございます。

対応ということでは、基本的に施設の新設、増設というものにつきましては、産業開発促進条例というものがございまして、この部分ですとか、あと商工業の元気支援条例というのが適用になる場合があるということでございます。

また、細やかな対応といたしましては、経営の向上につながります施設の整備ですとか、販路拡大のための費用、また、従業員の研修費用等に対して、やる気応援補助金規則というのがございまして、これらによって支援できるということから、現状はまずこの制

度を活用して対応しているという状況でございます。

次に、若者世代の地域参加についてということでございます。

現在も市民の意見を伺うということでは、連合町内会を単位として実施しております協働ルームまたは市政懇談会、また、総合計画の策定に当たりましては総合計画審議会、また、未来づくり基本条例に基づく三笠市未来創造会議、また、市内の主要団体の長と協議いたします主要団体協議会などがございまして、このような中で市政に対する意見や協議をさせていただいてきているというところでございます。

また、若い人の意見を聞くということでは、先ほど議員のほうからもちょっとお話ありましたけれども、平成27年度の補正予算、ここにのせております地方創生の加速化事業ということで、その中で江別市との広域連携事業ということがございまして、学生に北海盆おどりの手伝いですとか事前のPR、また、今後の北海盆おどりのイベントに対する意見などを求めたいということ考えているほかに、三笠高校の同窓会を、これを三笠市で開催いたしまして、卒業生に意見を聞くなど検討しているというところでございます。

最後に、特命大使の関係でございます。

特命大使の関係で、札幌三笠会、東京三笠会の活用をできないかというお話だと思いますけれども、現在、役員がそれぞれ二十数名ずつおりまして、役員には会の経費で名刺を作成しまして三笠のPRをしていただいているということでございます。役員以外の方にもいろいろと活動ということでございますけれども、費用がやはり発生するという事などもございまして、今後それぞれの会の役員会等に今後の活動についていろいろと協議をしていきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） 大変貴重な答弁ありがとうございます。

それでは、一つ一つ改めて質問させていただきます。

まず、企業誘致の件でございますけれども、まず私、今、53区画、それで多分42社の操業ということになっているというふうに思うのですけれども、その辺間違いないか、ちょっと確認させていただきたいのですが。

◎議長（谷津邦夫氏） 商工観光課長。

◎商工観光課長（阿部文靖氏） 現在52区画の販売ということで、41社の操業ということで私たち押さえております。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） ちょっと1社多く、私、見ていたようですね。

それで、わかればいいのですけれども、ここ5年ぐらいの間で、新規に誘致してきた企業もしくは撤退した企業は何社ぐらいあるのか、わかればちょっとお聞かせ願いたいと思うのですが。

◎議長（谷津邦夫氏） 商工観光課長。

◎商工観光課長（阿部文靖氏） この5年間で大きな従業員ということでは、京セラ

キンセキさん、それからホクレンの三笠食品工場さん、これらが一番大きなもので、済みません、あと小さなものは数字ちょっと押さえておりません。申しわけありません。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） ありがとうございます。通告になかったので、数字的にちょっと難しいかと思ったのですけれども。

いずれにしても、非常に工業団地といいますか、三笠の企業、撤退されている企業もあるということで、また、新規の誘致という部分で非常に厳しい状況にあるということは私も認識をしているところでございます。

今、御答弁にもありましたけれども、今後、誘致に向けては、ある意味、食という部分にターゲットを当てて誘致活動を行っていくということで、これはいわゆる今後、三笠市のビジョンといいますか、特産品であったり、三笠高校の食物科であったり、食という中で三笠の地域経営がなされていくという部分で連動させるという意味だというふうに思うのですが、例えば今その調査会社にそういう三笠の地域ビジョンというか、思いをこちらの側から発信するというようなことは現在しっかり行っているのでしょうか。ちょっとお聞かせ願えませんか。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 私どものほうで、その調査会社のほうに依頼する際に、三笠市として今後このような形でいきたいという意思を伝えまして、その中でそこを重点的に調査していただいているという状況です。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） はい、ありがとうございます。

非常に大切なところかなというふうに思うのですね。もちろんいろんな助成であったり、優遇措置であったりという部分も、やはり企業にとっては誘致を決める際に引かれるところではあるかというふうに思うのですけれども、やはりそういった地域の熱意といいますか、そういったビジョンをしっかり示すことが、いろんな誘致先を考えている企業にとって、大きなそういった判断材料になるのではないかなというふうに思います。

先ほどちょっと市長にトップセールスになっていただきたいなんていうお話もさせていただきましたけれども、やはり市長にそれをすれというわけではないのですけれども、ある市ではやっぱり市長がトップセールスになって年間150社近く企業を回って、企業誘致に成功しているという、そういういい例もございます。いずれにしても、これ市長一人でお任せするわけではないのですが、そういった熱意という部分をしっかりと伝えていって、三笠のこういうような地域経営の目標があるから御社にぜひとも来ていただきたい、御社にとっても必ずそういった部分でメリットがあるという部分で、そういう思いを伝えることを粘り強く今後もやっていただきたいなと思います。非常に厳しいというところでもございますけれども、イオンアグリ誘致という部分で、今後、期待する部分もございませぬけれども、企業誘致については粘り強く今後もよろしくお願ひしたいというふうに思い

ます。

そこで、支援体制ということで、ちょっと岡山地区の工業団地内の企業とまた市内の企業と分けてお話をさせていただきたいのですが、今ほど工業団地の団地企業会との交流の中で要望等というものもあるということで、今、道路ですとか排水、そういったインフラの部分、そういった部分の要望があったということですが、例えば早急に手を加えなければならないというようなものがあつたりとか、もう今すぐそういうような補修に入るというような計画はあるでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 具体的にちょっとありましたのが、先ほど例えば排水の関係なので、やはり工場の敷地内に水がたまってなかなか抜けないと、やはり製造する上で非常に困難を来しているということで、そういう緊急性があるものについては予算化いたしまして対応してきているというような状況でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） 予算の関係もありまして、他の全体としてのインフラ整備もございますから、いろいろ大変でしょうけれども、極力そういった要望についてどう対応ができるかということだけは迅速に回答していただけて、そういうところで要望があつたけれども、なかなか行政が動いてくれないということになると、いわゆる企業と行政との信頼関係がうまくいなくなるという部分がございますし、既存の企業におけるメリットというのは、やはりそういった部分の行政がしっかり自分たちのそういう要望に対してきちんと対応してくれているという部分が既存企業のメリットになるのかなというふうに思いますので、ぜひともそういった部分は極力これから企業会とも連携しながら、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

そこで、それでは、この市内のいわゆる地元の企業という部分の支援体制についてちょっとお話をさせていただきたいのですけれども、簡潔に言うと、雇用対策であつたり、定住につながる地元出身の新卒者の募集を行って採用している、そういった企業に対して、一定の新卒者採用による初期投資の助成であつたり、もしくは研修育成費の助成を行ってはいかがですかという私からの要望でございます。今ほどの答弁でも関係する方々、企業とも制度を検討していただくというお話もございましたけれども、28年度もいろいろ政策ある中で、新規企業であつたり、イオンアグリであつたり、観光の部分であつたり、いろんな施策がとられて、もちろん市内の企業に対しても仕事の部分ですとか、いろんな部分で行政もしっかりと考えていただいて、市内業者を守るという観点で頑張っているというふうに思うのですけれども、やはりそういう人口減少だつたり、地元の人間をとると意識を持っている企業があるということをやぜひとも評価させていただきたいなという思いがございます。莫大な助成をするということではなくて、やはりそういったところに行政がきちんと目を向けているのだよということを示していただくような助成でいいと思うのですね。ですから、できれば、そういった考え方がないのか、若干お

話しいただければと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 地元の方の採用ということでございますけれども、確かに地元例えば就職したいですけれども、いろいろな要因があるのだとは思いますが、働く場所がないという声も聞かれています。

あと、定住政策、これを進める上では、やはり雇用対策というのは住宅対策とあわせて重要な課題ということがございまして、これまでも関係所管と検討を進めてきているというところでございます。

議員の言われます地元出身者なり地元の方の採用ということでございますけれども、地元の方を採用した場合、例えば企業のメリットがどうなのか、また、それによって採用枠がふえます市民のメリットですとか、雇用の定住対策が進む市のメリット等いろいろありますけれども、これら三つの要素がうまく機能していくのかどうなのか、関係する方々の意見を取り入れながら制度検討をしていきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 商工観光課長。

◎商工観光課長（阿部文靖氏） ただいまの部長の答弁に加えまして、細かいところでちょっと私のほうで御答弁させていただきます。

まず、市内の企業の方が三笠の方を就職させてそこで育てていくという意味でいけば、そこは非常に私たちも重要な部分というふうに認識しておりますので、今後そういった制度開発というか、今、市のほうでは産業促進を必ずやろうということでやっておりますので、こういった制度開発も含めて関係する方々といろいろ協議していきたいなと思っております。

私たちも、やはり今なかなか新規で企業誘致できるということはちょっとお約束できることではありませんけれども、市内の企業を守るという視点では非常に大事な部分だと思っておりますので、そこはしっかりやっていきたいと思っております。

そういう意味で、現制度の中では、雇用者に対しまして産業開発促進条例等で1人幾らとか、そういった補助をできる場合もありますし、やる気応援補助金につきましては、研修制度で旅費だとかそういった場合にも補助できる制度もありますので、今の既存の制度を変更する必要があるであれば、今後いろいろ協議していきたいと思っておりますけれども、できるだけ企業の方に沿うようなことはやっていきたいなとは私たちは思っております。

以上です。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） ありがとうございます。

そういった助成の部分もあるというふうにお聞きしました。実際、これ行政のほうで、例えばこの会社にそういう地元出身の新卒者が入社しましたよというような情報は把握できるでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 商工観光課長。

◎商工観光課長（阿部文靖氏） 新卒でということではありませんけれども、従業員調査で市内の方がどれだけいるのかとかというのは調べさせていただいております。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） そういうことであれば、ある程度の調査はできるということでございます。

そういった部分におきましては、私も商工会の一員でございますので、商工会とも連携していけば、よりスムーズになるのかなというふうに思いますので、それで、例えばそういった今いろいろな助成の部分もあるというふうに聞きましたけれども、では、これ企業の方ですとか個人の方がそういった助成をしっかりとわかっているのかなという、なかなか難しい部分があるのではないかなと思うのですよ。例えば企業に、一目でそういう助成だとか、そういったものがわかる、例えばこれは子育て支援の部分でもいいし、いわゆる若者世代に何かそういう三笠は助成があるのだよというような、何か一目でわかる、そういうようなリーフレットみたいなものというのは今あるのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 商工観光課長。

◎商工観光課長（阿部文靖氏） 制度につきましては、工業団地企業会等とも話しするときには、必ず資料を添付させていただきまして、こういった制度になっていますと。ただ、もう少し例えば手続簡潔にできないだろうかとか、そういったことは要望としては出されますけれども、一応パンフレットだとかいろいろ用意させていただいておりますので、そういったもので活用させていただいております。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） ありがとうございます。

三笠にはいろんな制度あるのですけれども、こういった企業支援だけではなくて、案外そういったいい制度をなかなか理解していなくて、使い切れていない方も結構いらっしゃいますので、このことに限らず、何かそういったものを周知できるような施策が今後必要ではないかなというふうに思っております。

いずれにしても、企業支援という部分で御答弁にもありましたけれども、そういった部分、しっかりと地元の企業を守っていくという姿勢はしっかり持っていらっしゃるということを確認させていただきましたので、ぜひとも企業誘致、また、その企業支援体制について行政が商工会とも連携しながら、そういった部分の地域支援できるように今後もよろしくお願ひしたいということで、この質問については終了させていただきます。

それでは次に、若者世代に対する環境づくりについて再度質問させていただきます。

御答弁にもありましたとおり、地域創生加速化事業の中の江別市との広域連携事業という部分で、これは本当に大いに期待するところでもありますし、例えば大学生の方が今回は盆踊りのほうに参加または協力していただけるということでございますけれども、その大学生の方々が三笠のそういうフィールドワークを通して外部の視点から見た三笠の魅力

という部分を、ぜひともそういう部分を探っていただいて、例えばそういったものを一つの冊子にまとめていただくとか、そういったようなさらに三笠市民にとって活気が出るような、そういう施策というのは現在考えていらっしゃるのでしょうか。ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画振興課長。

◎企画振興課長（小田弘幸氏） 今回のこの広域の江別市との事業については、まずはやり始めたばかりの部分があるものですから、まず北海盆おどりに対する御意見だとか、例えば直接的に盆踊りに参加していただくとか、あとは江別の学生1万人いますので、そういった学生のネットワークを通して、やはり北海盆おどりのPR、参加含めてそういった事業をまずはやってみようという形で今回提案をさせていただいていますけれども、今後そういったような、今、議員がおっしゃるような、例えば外から見た若者の視点だとか、以前にはやっていることがありますけれども、今後もそういった部分含めて、そういった事業についてちょっと研究をしていきたいなというふうに思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） そういった大学生との交流というか、そういう地域参加で三笠が活性化されればいいなと思いますし、3月に入ってからでしたか、北大の大学生が三笠の炭鉱について卒業論文を作成したと新聞報道で出ておりました。そういった事例もありますし、今後もそういった三笠のフィールドを通して活躍された大学生が卒業制作ですとか、学校での研究というもので三笠を使っただけだと、そういうような形にまで広がっていただけると非常にいいことになるのではないかなというふうに思っています。

三笠高校の同窓会の意見交換等も三笠で行われるということも、これも本当にぜひとも行っていただきたいという部分でございます。

私、さらにいうところで、いわゆる若い世代、特に三笠出身の高校を卒業した方、もしくは大学生の方、そういったところに実はターゲット絞ってお話をさせていただきましたけれども、まずはそういったどれぐらいのそういう対象者がいてというような現状の分析ですとか、当然戦略の必要性だったり、広報の重要性というものが取り上げられているというふうに思うのですけれども、若者層の実態がどうなのかという部分を明確にするためにも、ある程度調査は必要になってくるのかなというふうに思いますし、まだそういった若者世代という部分でいくと、18歳から大学の22歳ぐらいというのは、実は一番もしかするとまちづくりという部分については接点がない世代なのかもしれないのですけれども、今、今後やっぱりそういう若者みたいに三笠のような地域がやっぱり取り入れていく努力をしていかないと人口減少という部分も食い止められないと思いますし、また、先ほども言いましたように、地元志向、地元愛という部分が増してきているという部分、私も近ごろの若者を見るとそういった部分を感じるのです。

ですから、そういった部分をやはり利用しながら、そういう活躍の場をぜひとも設けていただきたいなというふうに思うのですけれども、例えばジオ三笠、これからもいろいろ

とジオについてはガイドですとか、そういった部分はそういった若い世代に解説員というか、ガイドになっていただけないかなど。当然そうなるためには、いろいろ試験とかそういうものでABCとあるというふうに聞いていますけれども、例えば大学生であると、なかなか地元、こちらに来てできないですから、ネットを使ったeラーニングみたいなものがあると思うのですけれども、そういうのも活用していただいて、地方にいてもそういった三笠のジオについてのそういう勉強ができたり、興味を持つことができるような環境をつくったり、一番いいのは、市長との懇談会みたいなものをぜひともやっていただければ、公開でやっていただけると、その親御さんも興味を持って見に来るだろうし、そういった部分で三笠の行政が今後どうなっていくのだという部分で市民に周知する機会にもなるし、若者の地域参加のきっかけにもなるのかなというふうに思いますし、また、若者が今、自分たちが三笠に帰ってくるという部分で何が、どういう三笠になってほしいのかという部分も、率直なそういった意見交換もできるような場をぜひとも持っていただければなというふうに思います。それについてちょっと何か御見解があれば、お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画経済部長。

◎企画経済部長（中沢敏男氏） 今、議員言われるように、確かに若い人の意見というのは、本当にこれからまちづくりを進めていく上でも、やはり重要になるというふうな認識をしております。

ただ、現実の問題として、例えば高校卒業した方ですとか、大学卒業した方にいかに集まっていたらそのような場を設けられるとか、ちょっとなかなかいろんな難しさもあるのかなというふうに思いますので、その辺については今後どんな形でできるのかどうなのか研究していきたいと、そのように思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 折笠議員。

◎1番（折笠弘忠氏） 本当に難しいと思うのです。そういう部分では、私もできることがあれば協力は惜しまないというふうに思いますし、そういった若者への地域参加という呼びかけを私も率先してやっていきたいというふうに思いますので、ぜひとも行政にも御協力をお願いしたいというふうに思います。

それでは、最後、特命大使という部分で御質問させていただきますけれども、先ほどトップセールスで市長に頑張っていたきたいという話を再三、もう3度目になりますけれども、申し上げますけれども、多分去年は市長も1年目ということもあって、かなり遠慮をされていたのではないかなというふうに思っております。今年度においては、かなり前面に出てきていただけるのかなというふうには思っておりますが、特命大使という制度はやはりいい制度ですので、今後そういったその特命大使になり得るそういう優秀な人を今後PRとしてどんどん使っていっていただきたいなと思います。

観光大使、今、札幌三笠会、東京三笠会の役員の方が何かふるさと大使という、きのうもそんなようなお話が出ていましたので、名刺を持って活動していただいているという、

20名、20名ぐらいで40名ぐらいになるのでしょうか。観光大使という部分でいくと、よく芸能人というか、小日向さんという部分で名前が挙がってくるのかなというふうに思うのですが、今や小日向さんももうある意味、日本を代表する俳優さんでありまして、非常に多分そういう時間もなかなかないというふうには理解をしているところでございますけれども、例えばそういう方がなってくれば当然いいのでしょうかけれども、そういった形ではなくて、例えば今言ったふるさと大使という方の中に拡充、もうちょっとやはり役員さんだけでなく、ある意味そういう方全員が大使になっていただいてもいいのかなというふうに思いますし、先ほどちょっと若者の話ししましたけれども、若者のそういうまちづくり推進大使みたいなものを任命して、そういった逆にそういう若者を集めるリーダー役の人間になっていただいて、参加を促すというようなこともできないのかなというふうに思っています。いろいろな地域でそういった観光大使とかありまして、芸能人がなったりということで、その効果という部分が果たしてどうなのかなという部分は確かにあるとは思いますが、そういう発信をしていくということもその一つのPRになると思いますし、多分大使になってくださいとあって嫌だなという方はいらっしやらないのではないかなと思うのです。いよいよ三笠も俺に頼ってきたかと、そんなような気持ちにもなるのかなと思いますし、昨日出たいわゆるふるさと納税という部分についても、かなり効果があるのではないかなというふうにも思いますので、ぜひとも今後、そういう地域の人間でもいいですし、先ほど言った札幌三笠会、東京三笠会のいわゆる会合の中で、そういった拡充についてもお話をしたいなというふうに思います。もし特命大使の件について御意見があれば、お聞かせいただければと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） 皆さんの持ち時間がきっちりきっちりしているものですから、いっぱいいっぱいお話、御質問いただくと、私のしゃべる時間が全くなくなるので、ちょっとだけ最後に残っていると話しやすいと、そういうことでございます。

それで、まず企業誘致です。これ、私も長く担当していましたがわかりますが、企業誘致は今アンケートをとってもほとんど有意回答はありません。そして、何よりはっきり言えることは、今まで私どものまちでアンケートをとって、そこにアタックしても、来た企業はありません。そういうものなのです、企業誘致というのは。ですから、アンケートはPRだと思わなければならない。それはもう私ども割り切っています。

それで、今まで、では企業来ているのではないかと。向こうから、そこあいていますか、どうでしょうかというような企業なのです。当然そうですね。向こうの必要性ですよね。ですから、ふだんからやっぱりPRしていくという姿勢を持つと。ですから、一定のところをお願いを申し上げて、どんどんどんどんアンケートを出していくという努力が常日ごろ行われているし、恐らくそれでいいのだらうと思います。

あと、もう私自身も課長、部長の時代に悩みましたけれども、私自身がどこかに行く。どこかに突然飛び込んでいかがでしょうかというのは、なかなか成り立たないのです。

だから、やっぱり手法としてはそういう手法だろうなと思いますし、出かけることは何も構わないのですが、やっぱりそういう無理があるのだろうというふうに思っています。ただ、いずれにしても、そこはしっかりやっていくということは今後も変わりはありません。

ただ、いつも申し上げるのですが、やっぱり企業誘致も含めてまちのポテンシャルが上がりなければだめですね。聞いたこともない、見たこともないようなまちに当然行きますとなかなかならないです、現実には。ですから、私ども努力して高校を残せたというのも一つ非常に大きかったと思っているのですね、企業誘致の面では。あの際に、私が一番最初感じたことは、当時の市長に申し上げたこと、やっぱり企業誘致上、物すごいマイナスになりますと、高校がなくなるのだということは。これはやっぱり向こうから来られる企業も一定の方は来られますから、現地採用する方もいてもやっぱり向こうから主軸の方来られると。そのときに、うちの子供は高校はどこに行ったらいいですかと、こういうふうになるのですね。ですから、高校もないようなまち、ええ、ちょっとそれはという感じになってしまいますので、なかなか話すきっかけにももうならないということになります。そういう意味では、企業誘致上も非常にあの高校を残せたということは非常に大きかったなと今思っているところであります。御参考にしていただければと思います。なおなお努力してまいりたいと思います。

それから、企業に関しては、もう要望を聞く機会、所管が一生懸命やってくれていて、しっかり聞いてもらっています。大体、お話いただくことについては何とかうちのほうで対応できるものはしているということだと思います。ただ、さっきちょっと話にもありましたように、ランニングコストまで見ろと言われると、これなかなか、そこは最低限御努力いただかなければならないところなのだろうという基本姿勢でいますので、ケースによっては検討するケースもあると思いますけれども、そこのところは今のところは御努力いただくということになるのだろうというふうに思います。

企業への助成というよりは、私は今は、企業助成よりもやっぱり居住環境かなと思っているのですよ。と申しますのは、前にも何度か申し上げたかもしれませんが、うちの例えば岡山の工業団地、7割、市外の方です。今はもっと多くなっているのかもしれない、私が担当していたところで7割ですから今はもっと比率が多いのではないかと思います。ですから、あそこに居住空間をもっともっと演出できると、やはり大きく流入してくるきっかけになっていくだろうなと思っていまして、実は市政執行方針の中にもあったと思いますが、道営住宅の設置というのは、これ先日ある道議会議員さんが来られたときにも、私どものほうで要請をさせていただいておりますけれども、ぜひ実現したいなど。必要あれば、市自体の住宅も建てていっていいのではないかとというふうに思っています。ですから、そういう空間づくりをしっかりしながら、あの企業を生かしていくと。今のところ働きにいらしていただいても、結局はそれは市外の、例えば市民税になってしまうわけですね。ですから、そういう意味では、私どもに入ってきていただいて、私どもに税を落とし

ていただくと大変ありがたいと思いますし、そこでまた企業活動が活発になれば、もっといいことだというふうに思っていますので、今のところは、何とか居住のほうをしっかりと位置づけられないかなというふうに努力をしている最中でございます。

それから次に、若い方々の問題です。これは当然のことながら、部長も申し上げましたように、非常に大事なことだというふうに思っておりますけれども、これは今、盆踊りに関して言えば、このまま放置するとやはりどんどんまた下火になります。今の盆踊りがあんなふうに元気になれたのは、当時、私が係長か課長だったと思いますけれども、その際に当時の助役さんに呼ばれて、突然、何とか、盆踊りがもう火消えそうだと、一つの輪もできない、何とかならないかという相談を受けて、それで、こんなことしたら、あんなことしたらいろいろな方々に声かけもしながら、何とか3重ぐらいの輪にすることができたのですよ。ここまでなったのだったら、次、三笠北海盆おどりに仕上げたいという話になっていったわけですね。ですから、そういう努力がずっと積み重なって今日がある。しかし、このまま放置すると本当に私はやっぱり盆踊りはだめになると、何度も教育委員会に言っています。だから、しっかりといろいろなものをやりたい。だから、和のことも私のほうから申し上げたことですし、やっぱり私は3年ないし5年に1回はカンフルを打たなければだめなのだろうなど。それで、新しいもの新しいものを取り入れながら、その時代に合うような北海盆おどりにしていくと。踊りそのものもあれでいいのかどうかというようにところまで議論をしてくれというふうに言っているのですよ。そういう変化をつけていかなかったら、盆踊りはこれからなかなか簡単に伸ばしていけない環境にあるだろうと。しかし、一方で言えば、昨日も申し上げましたように、ジオそのものですから、盆踊りは。そのところをしっかりと今後も位置づけながら、取り組んでまいりたいというふうに思っています。

それから、最後のところでちょっと申し上げたのだろうと思いますけれども、同窓会でですね、三笠高校の同窓会、これを私はもう絶対やってくれというふうに言っているわけです。何が何でも同窓会をしっかりと、それを市のほうで悪いけれども名簿管理もさせていただいて、しっかりといろいろな私どもこれから打つ政策をどンドンどンドンそこにPRしていくと。しっかりと陰の三笠市民みたいに同窓生になっていただくと、それで三笠のまちづくりに協力していただくと、そういう環境づくりをしっかりとやってくれというふうに企画のほうに言っております。これは今後しっかりとつくり上げていくという努力をしてもらうことにしておりますので、ぜひぜひ御理解をいただきたいと思います。

それから、ジオの関係で市長との懇談会をとということで、これはもう本当にありがたい提案でございますので、ぜひ頭にとめさせていただいて検討させていただきますけれども、そのこともありますし、まずしっかりとジオなんかはつくっていくということが大事なのだろうと思っているし、まだまだパワー不足だと私自身思っています。やっぱりジオをつくるには10年、20年しっかりとしたものをつくらなければならないと。世界ジオパークを目指したい。目指したいけれども、だけれども、やはり今の状況でいいのだろう

かと。

それから、きのう、たしか畠山議員の質問で大変恐縮ですが、原石山のお話もありました。原石山は非常に貴重な空間だと思いますが、私が常日ごろ言っているのは、やっぱり砂子組の露天掘りの見事に出ている地層、ああいうものをしっかりとごらんいただくということが大切で、あそこ上空を一時ヘリコプターで飛んだことがあるのですが、すごい見事なものだなというふうに思いました。かなり学術研究の方々も来られているというふうに聞いておりますし、そういう意味では、ジオの重要なスポットとして今後も考えていくべきだというふうに今考えているところであります。

それから、トップセールス、私幾らでもやります。ただ、昨年、前小林市長に行っていたのもそうですけれども、私はできれば交渉役になりたいというふうに思っています。私が何にでも出ていくというよりはむしろ、ですから、ことし、御報告申し上げましたように、1月の25日から27日だったでしょうか、イオンさんに行って交渉しているのも、そうでございます。やはりしっかりした足固めを私自身が、それもトップセールスと言えどトップセールスなのですが、現実に表にもう心配ないなという状況で出ていただく場合はやっぱりできるだけ市民のいろんな方々に前に出ていただいて、いろんなものを経験して、いろんなものを体感していただくということが大事なのだろうなど。もちろん私自身が行くべきときには、しっかりとその対応はさせていただきたいと思っています。

それから、小日向さんのお話、さっきもいただいたので、これ大変ありがたいなと思って、小日向さんにぜひぜひ私どものPRしてもらいたいと思っているのですよ。どのタイミングがいいかということですね。それで、私は今、みんなに言っているのは、やっぱり高校生レストランできるときに、あれはPRというのは思い切りどんと上げる必要がありますから、そのときに何か御活躍いただけるような工夫がないかなというふうに思っております。そのタイミングが大事だろうと。どこでもいいというわけにはいかないだろうというようなことも思っております。そんな考えができればと、うまくいけばというふうに思っておりますので、ぜひぜひまた御参考にしていただければと思います。

どうもありがとうございました。

◎議長（谷津邦夫氏） 以上で、折笠議員の質問を終わります。

これをもちまして、市政執行方針及び教育行政執行方針並びに議案第30号から議案第37号までについて、通告のあった質問は全て終了しました。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第30号から議案第37号までについては、8人の委員をもって構成する特別委員会を設置し、付託の上、審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 御異議なしと認めます。

議案第30号から議案第37号までについては、8人の委員をもって構成する特別委員

会を設置し、付託の上、審査することに決定しました。

続いて、お諮りします。

ただいま設置されました特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条の規定により、配付した一覧表のとおり8人を指名したいと思います。御異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

◎議長(谷津邦夫氏) 御異議なしと認めます。

ただいま指名しました8人の委員を特別委員会委員に選任することに決定しました。

**◎日程第2 議案第8号から議案第29号まで、議案第38号
及び議案第39号について**

◎議長(谷津邦夫氏) 日程の2 議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号についてを一括議題とします。

前回の議事を継続し、直ちに質疑を行います。

(「なし」の声あり)

議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号に一括して質疑を受けます。

(「なし」の声あり)

◎議長(谷津邦夫氏) 質疑ないようですから、議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号についての質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっています議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号については、さきに設置した8人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することしたいと思います。御異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

◎議長(谷津邦夫氏) 御異議なしと認めます。

議案第8号から議案第29号まで、議案第38号及び議案第39号については、8人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することに決定しました。

◎休 会 の 議 決

◎議長(谷津邦夫氏) 休会についてお諮りします。

議事の都合により、明日3月16日から3月23日までの8日間、休会したいと思います。御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

◎議長(谷津邦夫氏) 御異議なしと認めます。

3月16日から3月23日までの8日間、休会することに決定しました。
以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

◎散 会 宣 告

◎議長（谷津邦夫氏） これをもちまして、散会いたします。
御苦労さまでした。

散会 午前11時58分

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

平成 年 月 日

議 長

署名議員

署名議員